

陳 述 書

2024年1月17日

福岡高等裁判所 御中

住所 福岡市城南区

氏名 高森 清子

私は、高森清子と申します。福岡市城南区に住んでいます。

50年前、子どもが生まれ、安全な食べ物を食べさせたいと生活協同組合で共同購入を始め組合員活動や、地域での文化活動を長年していました。2007年から1期 福岡市議会議員をしていますが、2011年3月の東日本大震災の時は2期目の選挙に向けて活動中でした。

11日の津波や原発が爆発するテレビ映像に釘付けになったことを覚えています。「これからどんなことが起こるのだろう、議員になって何が出来るのだろう、そもそも同じ市民として何を訴えていけばいいのだろう。」と告示後に街頭で訴える言葉が出てきませんでした。

その後、福島状況や原発問題についてずっと関心を持ってきました。

福島原発事故後に東日本広域に見られた急性原爆症候群とその後の慢性原爆症候群の原因は、テルル毒の被曝によることを突き止めた環境学者の京都精華大学名誉教授 山田國廣先生の報告に「甲状腺がんや甲状腺機能障害、白血病、乳がん、結腸がんなど、心筋梗塞、新生児の低体重出生や水頭症などの先天奇形、妊産婦の流産、早産などの産褥期障害、神経障害、免疫系障害などの症状の原因は、テルルの化学毒を主犯として放射性ヨウ素、放射性セシウムの複合影響によるもの」とあります。

元原発労働者で福岡市在住の梅田隆亮さんは、過酷な被曝労働に従事したことから急性心筋梗塞を発症しても労災認定がおりませんでした。2012年2月17日、裁判に訴え、2018年7月11日最高裁で上告棄却となり、上告受理申立も受理しないという判断をされました。

原発を動かすには人の力が必要です。そこで働く労働者は13ヶ月に1回の定期点検だけでも原発一基につき3000~50000人が働いています。2011年の福島原発事故後も除染作業や廃炉作業に従事する多くの人たちがいます。梅田さんは、「100万人にも及ぶと言われている原発労働者の安全と健康について、放射能によるリスク、人体に及ぼす影響が長期にわたって被害を生み出すかを、多くの人に知ってもらいたい」との思いでこの裁判を闘われました。今も廃炉作業が続いていて、あと何十年かかるのか、何万人の作業員が動員されるのか計り知れません。

2011年11月に福岡県の「女性の翼」事業で、デンマークとスウェーデンに行きました。両国とも社会福祉がとても行き届いていて、人の命や健康を第一にする国です。

デンマークでは、1973年に原子力発電が検討され、エネルギー政策は民衆が決める権利があるとして、国も情報開示を行い、国民投票をして脱原発を決め、自然エネルギーに取り組むことを議会で決めたのです。スウェーデンは、1970年代に原子力を推進してきましたが、79年にス

リーマイル島の事故を受け、1980年の国民投票の結果、2010年までに原子力発電を段階的に廃止する決議が採択され、当時10基あった原発を段階的に廃止することを決めています。両国とも、国が十分な情報を出し、国民投票までしてエネルギー政策を決めていることです。

翻って、日本ではどうでしょう。安全神話を教え込み、2011年の時にはいつの間にか原発は54基もあったのです。放射性物質は大気中や陸・海にも拡散します。セシウム137の半減期は約30年、プルトニウム239は半減期が2万4千年、と長い時間と費用がかかるということは知らされていませんでした。

2017年に福島に行きました。車で移動中、多数の黒いフレコンバッグがあちこちにあるのが目につきました。トイレ休憩のために入ったスクリーニング場では、線量計とその光景を写真撮影しようとしたところ、「ここは国の許可がないと写真は撮ってはいけない！」と怒鳴られ追い出されました。また、「請戸の浜」では津波によって多くの家が流されてコンクリートの残骸が残っているだけでした。ここでは消防団の方達は11日夜まで捜索を続けていましたが、翌12日午前5時頃に線量が高くなったことから福島原発から10キロ圏内に避難命令が出され、救助隊が請戸の浜に入ることが出来たのは1ヶ月後のことだったそうです。11日夜まではクラクションをたたく音が聞こえ、生存者がいたのに救出に行けなかった救助隊の方達の無念さは計り知れません。放射能は危険なもので、安全ではないのです。

福島市内の自然豊かな里山にある信夫山ガイドセンターでは、「除染」が行われトラックや作業員の人たちが行き来していました。自然観察所の方と「原発は危ない」などの話をしていたところ、「ここでは原発の話はしていけないのだ」と言われ、箝口令が敷かれていることが分かりました。自由に物が言えないのです。

ドイツでは、福島原発事故を契機としてメルケル前首相が原発廃止を決め、2021年12月31日、国内で稼働中の原発6基のうち3基の稼働を停止し、2023年4月15日には全原発を廃止しています。

地球温暖化の原因としてCO²削減の代わりに、エネルギー源として原発回帰に走っているようです。原発はテール毒や放射性物質を環境にばらまき、複合影響で健康被害を起こしてしまう危険なものです。

デンマーク・スウェーデンのように再生可能エネルギーへシフトして、国民の声を聞き、国と企業が知恵を出し合って、人の命や健康を大事にする国づくりをすべきです。

私はこれからの子どもや孫の命や健康を守るために声を上げていきます。